

第1回 「国際法・国際政治の現場から」(2017年10月21日)

報告者 角谷 亮 (前・認定NPO法人AAR Japan〔難民を助ける会〕プログラ
ム・コーディネーター)

対論者 森川幸一 (法学部教授)

(於神田校舎5号館571教室)

前川亨 (専修大学法学研究所長) : 皆さま、本日は悪天候の中、専修大学法学研究所の「学生と市民のための公開講座 現場からの法律学・政治学Ⅱ」にようこそ来場下さいました。私は当研究所の所長を務めております法学部の前川と申します。講座に入ります前に、一言ご挨拶申し上げます。

専修大学法学研究所は、1967年に開設された法学部附置の研究所でありまして、今年ちょうど50周年の節目の年を迎えます。それを記念して、来年(2018年)2月には公開シンポジウムを開催すべく、現在鋭意準備を進めているところであります。こちらについても、追ってご案内を差し上げられると思いますので、奮ってご参加頂ければ幸いです。

当研究所は、所員相互での研究成果の発表を中心に活動して参りましたが、先々代の田口文夫所長の下で、社会知性の幅広い発信を目的として、長年の懸案であった「学生と市民のための公開講座」を企画し、2年間に亘って『法律学と政治学の最前線^{フロント・ライン}』を実施致しました。その後、本日の講座のコーディネーターをお務め頂いております、先代の森川幸一所長(現法学部長)の下で、新たに『現場からの法律学・政治学』の企画を発足させ、昨年度のパートⅠでは、本日もお出で下さっている海上自衛隊幹部学校の中村進先生、警視庁生活安全部の小松直人先生、新宿区児童相談センター援助課長の上川光治先生をお招きしました。その内容は、当研究所が刊行する『法学研究所所報』第54号に「特集」として掲載しております。ご関心のある方には無料で頒布しますので、入口のところでお問い合わせ下さい。

『現場からの法律学・政治学』の企画の趣旨は、お手元のパンフレットをご覧下さい。今年度は昨年度に引き続き、そのパートⅡと致しまして、やはり昨年度と同様、森川前所長、鈴木潔先生、渡邊一弘先生に、それぞれの回のコーディネートをお願いしました。今回がその第1回で「国際法・国際政治の現場から」、第2回は11月25日で「地

方行政の現場から」, 第3回は12月9日で「刑事法・刑事政策の現場から」となります。第2回以降もぜひご参加下さい。

さて、本日の講座では、角谷亮先生をお迎えして、「日本の人道援助活動の現状と課題」と題するご報告を頂きます。南スーダンの問題、更にはシリア難民の問題など、世界の人道危機に関するニュースが耳に入らない日はないほどです。私はかつて、ルワンダ内戦に関心を抱いている知り合いに勧められて映画『ホテル・ルワンダ』を見たり、フィリップ＝ゴーレイヴィッチ(柳下毅一郎訳)『ジェノサイドの丘——ルワンダ虐殺の隠された真実』(WAVE出版、2003年)を読んだりして、ショックを受けたことがあります。困っている人を助けたいと思うのは人情でしょうし、それが出発点ではありますが、しかし単なる善意だけではどうにもならない。それどころか、善意が仇になって事態が悪化することも無いとはいえません。人道援助の現場では何が行われ、何が問題とされているのか。何を必要とし、何を必要としていないのか。我々一人ひとりが出来ることは何なのか。余りにも知らないことが多すぎることを痛感します。本日は、角谷先生のご報告、森川先生とのご議論、更にはフロアの方々との質疑を通じて、こうした点を学んでいきたいと思います。

それではここから先は講座の進行も含めて、森川先生にお任せ致します。

森川幸一：ただ今ご紹介に預かりました森川でございます。私の専門は国際法、特に国際安全保障とか国際人道法を専門に研究しております。本日お話頂く角谷亮さんは、大学をご卒業の後、在外公館の派遣員としてナイジェリアで2年、フィリピンで半年勤務されました。2007年にAAR Japan(難民を助ける会)に入職されまして、タジキスタンの駐在員、それから先ほど前川先生のご挨拶にも出てきました南スーダンの駐在員、ケニアでの難民キャンプ事業に従事されました。2014年以降は東京本部で勤務され、南スーダン、シリア、ハイチ、バヌアツの各事業の展開に関わってこられました。まさに「現場」を経験されてきている方です。現在は東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障プログラム」の修士課程に在籍され、修士論文を執筆しておられます。私は東京大学大学院で昨年度まで国際人道法という講義を担当しておりまして、角谷さんはそれを聴講しておられました。そこでお話をするご縁が出来まして、本日、こちらでご講演を頂くことになったという次第です。

日本の人道援助については、平和憲法の下での自衛隊の海外派遣なども後ほど少し話題に上るかと思いますが、他方、人道援助に政府は大変力を入れているところでありまして、その「現場」をよくご存じの角谷さんに是非お話を頂きたいと考え

ました。

それでは、早速ですが、角谷さんの方からお話を頂きたいと思います。よろしくお
願い致します。